

# 『最初の詩』

～意識の生理学に関する考察～

希望の源  
将来の可能性など  
考えることなく  
目覚めへの瞬間

鼓動するへその緒に  
つながれ  
宇宙遊泳する  
飛行士のように

一体の胎児が暖かい  
羊水の中で眠る

胎児は小さな子宮の海で、  
その心臓を鼓動させる  
ドク  
ドク  
ドクと。。。

- T Newfields (和訳: 新田博とテレサ)

開始: 1996 年 静岡市 完成: 2006 年 東京都





**ミン：**（ワインを飲みながら）なんだか風変わりな詩だね。

**玲亜：** この作品には、原始人の脳のようなものを感じるわ。つまり、プログラミングされていないハードウェアのような。。。

**ティン：** 面白いわ。一体どれぐらいの人が、自分の頭脳をコンピューターになぞらえるのかしら。

**ティム：**（少し眉をひそめている）わからないな。この絵はスライスされた卵のように見えるし、詩はひどく幼稚だな。

**悟：** ぼくは、この絵は本能が、どう存在しうるのか、それとなく示しているんだと思うな。

**ミン：** それを知るのに、詩は必要ないでしょう。ビールが 6 本あれば十分じゃないの。

**玲亜：** 私たちが抽象的な思考と言っているものは、たくさんの地層の上にある道の表面のようなものね。この作品はその地層の一部を見せているようなものね。